

避難行動ガイド

市では、皆さんの生命に危険が及ぶと判断した場合、「避難準備・高齢者等避難開始」、「避難勧告」、「避難指示(緊急)」を発令し、皆さんに避難を促します。避難勧告等が発令するときは、様々な状況を総合的に判断して発令します。

避難とは・・・

避難は、災害から命を守るための行動であり、避難行動には次のような方法があります。

屋外が安全で移動できる状態のとき			屋外が危険な状態のとき
指定避難所・指定避難場所への移動。	警戒区域等内の自宅などから移動し、安全な場所への避難。(公園、親戚や友人の家など)	近隣の強固で高い建物などへの移動。	建物内の安全な場所での待避。 (家屋内への垂直避難) やむを得ず、家屋内に留まった場合、安全を確保する避難行動として、洪水対策では建物の2階以上高いところへ、土砂災害対策では、斜面と反対方向の高い階への移動が有効です。

※屋外へ避難するときは、車の利用を控えてください。(洗滌での立ち往生やアンダーパスでの水没の危険があります。)

避難勧告等の種類と、住民の皆さんの対応

避難勧告等は、災害の種類ごとに避難行動が必要な地域を示して発令しますが、地域やご家庭などの事情によって、「避難勧告」を待たずに避難が必要と考えられる場合は、「自主避難」をお願いします。

区 分	警戒レベル	立ち退き避難など住民の皆さんの行動
避難指示(緊急)	レベル4	・避難勧告を行った地域のうち、立ち退き避難がまだの人は、直ちに立ち退き避難をする。 ・立ち退き避難をすることが、かえって危険と判断される場合は、屋内で安全を確保する。
避難勧告		・非常時持ち出し品を持って、立ち退き避難をする。
避難準備・高齢者等避難開始	レベル3	・気象情報に注意を払い、立ち退き避難の必要について考える。 ・立ち退き避難が必要と判断した場合は、その準備と立ち退き避難をする。 ・要配慮者(障がい者や高齢者で避難行動が困難な人と、その支援者)は、この段階で立ち退き避難をする。

※上表は抜粋です。詳しい内容は本紙2ページをご確認ください。

※「自主避難」とは・・・避難勧告等を待たず、自主的に避難施設、親戚や友人の家などの安全な場所へ避難することです。その際は、出来るだけ必要な食料、飲み物、毛布、日用品などを持参するようにしてください。

※雨が降り続いていたら、テレビ・ラジオ・スマートフォン・パソコンなどで最新の気象情報を入手しましょう。特に、河川氾濫時の浸水想定区域や土砂災害警戒区域にお住まいの方は、自分で早めに判断し、「危ない」と思ったら、直ちに危険な区域から離れるなどの行動(自主避難)をとることが命を守ることになります。



大雨のとき

河川の近くや、土砂災害のおそれがある区域において、市が設定している基準に達した場合に、避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示(緊急)を発令します。また、短時間に大雨が想定される場合には、避難準備・高齢者等避難開始が発令されずに避難勧告、避難指示(緊急)が発令される場合もあります。

地震のとき

大きな地震やそれに伴う余震により家屋が倒壊し、又は倒壊するおそれがあるときに避難勧告、避難指示(緊急)を発令します。

※直ちに避難所を開設するよう努めますが、災害の規模により時間がかかる場合があります。

火災のとき

大規模な延焼拡大のおそれがあるときに避難勧告、避難指示(緊急)を発令します。

その他

その他災害が発生するおそれがあるときに避難勧告、避難指示(緊急)を発令します。

風水害対策

大雨や強風は、わたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

大雨情報をキャッチ!こんなときのわが家の安全対策。

大雨注意報・警報の発表基準

大雨注意報

大雨によって災害が起こるおそれがあると予測される場合。

大雨警報

大雨によって重大な災害が起こるおそれがあると予測される場合。

大雨特別警報

数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、重大な災害が起こるおそれが著しく大きい状況と予想される場合。

雨の強さと降り方

(1時間雨量:mm)

10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上～
やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
雨の音で話し声がよく聞き取れない。	ワイパーを速くしても見づらい。側溝や下水、小さな川があふれる。	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要。

風の強さと吹き方

(平均風速:m/秒)

10以上～15未満	15以上～20未満	20以上～30未満	30以上～
やや強い風	強い風	非常に強い風	猛烈な風
風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けない。転倒する人もいる。	何かにつかまっていなくて立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある。	立ってられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

竜巻から身を守る

竜巻の発生・接近を確認した時の退避行動

屋内の退避行動	屋外の退避行動
 雨戸、窓、カーテンを閉める。 建物の中心部に近い安全な部屋に移動する。	 屋内に退避する。 —大雨や雷に遭う可能性も高いので、早めに退避! —一人が集まる屋外行事、テントの使用、高所・クレーン・足場等での作業をしている場合は、早めに避難!

出典: 気象庁リーフレット「竜巻から身を守る!～自ら身を守るために～」(http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/tatsumaki201408/index.html)を一部抜粋して作成しています。

気象庁 〒100-8122 東京都千代田区大手町1-3-4
電話: 03-3212-8341 FAX: 03-6689-2917(耳の不自由な方向け)
気象庁ホームページ https://www.jma.go.jp

集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。発生の予測は困難で、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- テレビ・ラジオなどの気象情報に注意する。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 市や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 非常時持出品を準備しておく。
- 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。

つねに気象情報には、注意しておきましょう!



アンダーパス等冠水危険箇所に注意!

交差する道路の下や鉄道の下などは周辺の地面より低く地形的に雨水が集中しやすい構造となっています。そのため大雨や洪水などにより、真っ先に浸水してしまいます。普通車の場合、約30cmの冠水で走行が困難になることから、道路状況には十分注意して通行するようにしましょう。